

プレスリリース

2015年6月16日

報道関係 各位

日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社
日本イーライリリー株式会社

この資料は、ドイツ ベーリンガーインゲルハイムと米国イーライリリー・アンド・カンパニーが6月8日に発表したプレスリリースを日本語に翻訳したものです。なお、日本の法規制などの観点から一部、削除、改変または追記している部分があります。この資料の内容および解釈についてはオリジナルが優先することをご了承ください。

2型糖尿病では、医師と患者とのコミュニケーションが良好であるほど 患者の自己管理が向上 —IntroDia™調査の新たなデータを第75回米国糖尿病学会(ADA)で発表—

2015年6月8日ドイツ/インゲルハイム、米国/インディアナポリス

IntroDia™の新たな調査結果から、治療中の2型糖尿病患者に対して、新たに経口薬が追加処方される際の医師と患者とのコミュニケーションの質が、その後の患者の自己管理とQOLに関連していることが明らかになりました¹。IntroDia™は、国際糖尿病連合(IDF)とのパートナーシップのもとで行われているベーリンガーインゲルハイムとイーライリリーの取り組みで、この種の調査としては最大規模の多国籍共同調査です。今回の結果は、26カ国の2型糖尿病患者4,235人の回答から定量的に示されました¹。

新たな経口薬を追加処方する時のコミュニケーションの質(患者の認識に基づく)と、調査対象となったすべての自己管理項目の結果には関連性がありました¹。医師との会話を思い出した時に、良好なコミュニケーションがとれたと記憶している患者ほど、糖尿病に関連した精神的苦痛・運動頻度・食事療法などを含む自己管理の向上、QOLの向上、さらには服薬アドヒアランスの向上がみられました¹。

英国の医師であり、IntroDia™アドバイザーボードメンバーであるDr. Matthew Capehornは次のように述べています。「経口2型糖尿病治療薬の追加投与が必要であることを患者さんに伝える際、説明方法が適切でないと、患者さんにとって辛い瞬間となる可能性があります。医師が勇気づけるような話し方をすれば、その後の患者さんの自己管理に大きな違いを生むことができます。今回のデータで、この追加処方を伝える際のコミュニケーションの質がいかに重要であるかが裏付けられました」。

この調査から、患者は医師の発言の中に、「勇気づける」発言、「協調的な」発言、「落胆させる」発言という3つのタイプがあると認識しており、それらがコミュニケーションの質を決めるということが分かりました¹。医師が「勇気づける」発言、「協調的な」発言をしていた場合、コミュニケーションの質に対する患者の認識は大きく向上し、逆に「落胆させる」発言をしていた場合は低下しました¹。

患者からのコメントとして、以下のようなものがありました。

- 「勇気づける」発言について
 - 「新しい薬によって、糖尿病の管理がしやすくなると説明してくれた」
 - 「新しい薬によって、生活の質が向上すると言ってくれた」
- 「協調的な」発言について
 - 「新しい薬に関して質問しやすい雰囲気をつくってくれた」
 - 「私の日常生活に合わせて治療計画を調整してくれた」
- 「落胆させる」発言について
 - 「私の糖尿病は管理不能だと言われた」
 - 「私の自己管理が十分でなかったため、薬をもっと増やさなくてはならないと言われた」

また、追加処方時の医師とのコミュニケーションから最も思い出される発言は何か調査したところ、「勇気づける」発言を思い出した患者が最大 85%、「落胆させる」発言を思い出した患者は最大 53%でした¹。

Capehorn 医師は、「患者データから、医師は『勇気づける』発言と『協調的な』発言をすることがほとんどであり、『落胆させる』発言をすることは少ないということが分かりました。ただ、2 型糖尿病の管理に必要とされる望ましい行動変容を促すために、追加投与時のコミュニケーションはさらに改善できるはずです」と結論付けています。

* IntroDia™ 調査に参加した計 10,319 人のうち 4,235 人の 2 型糖尿病患者が追加処方時のコミュニケーションについての質問に関する必要な基準を満たしました。尚、治療初期の「診断時」のコミュニケーションについては 10,319 人の調査参加者全員に質問しています。

IntroDia™ について

IntroDia™ は、医師と 2 型糖尿病患者の治療初期のコミュニケーションについて調査した、史上最大規模の多国籍共同調査です。調査には、26 カ国の 6,753 人の医師と 10,139 人の 2 型糖尿病患者から得られた情報が含まれます。この調査は、2 型糖尿病管理においてきわめて重要だと思われる 2 つの時点、2 型糖尿病診断時と経口薬が追加処方される時に焦点をあてています。データの評価は現在も継続しており、さらに詳しい結果については 2016 年にかけて発表していく予定です。IntroDia™ 調査で得られる情報は、2 型糖尿病の治療初期のコミュニケーションを支援し、最終的には治療の質を向上させられるような解決方法の策定に使用します。

IntroDia™ は、国際糖尿病連合 (IDF) とのパートナーシップのもとでのベーリンガーインゲルハイムとイーライリリー・アンド・カンパニーの取り組みです。作成にあたり、プライマリケア、内分泌学、行動心理学、看護、糖尿病教育の分野の専門家によって構成される国際的なアドバイザリーボードの協力を得ています。メンバーは以下のとおりです。Ms. Anne Belton (カナダ)、Dr. Steven Edelman (米国)、Dr. William Polonsky (米国)、Dr. Matthew S Capehorn (英国)、Ms. Su Down (英国)、Prof. Aus Al Zaid (サウジアラビア)

調査デザイン

IntroDia™ 調査では、評価ツールと新しい調査方法を併用し、治療の質を評価し、医師と患者のコミュニケーションにおける重要な要素を特定しました。調査はオンラインアンケートと電話で行い、必要に応じて直接面会して話を聞きました。本リリースに記載したデータは、追加処方時のコミュニケーション (医師の言動を含む) に関する質問に対し、26 カ国の 2 型糖尿病患者 4,235 人の回答から得られたものです。

ベーリンガーインゲルハイムとイーライリリー・アンド・カンパニーの提携について

2011 年 1 月、ベーリンガーインゲルハイムとイーライリリー・アンド・カンパニーは、糖尿病領域におけるアライアンスを結び、同領域において大型製品に成長することが期待される治療薬候補化合物を中心に協働していくことを発表しました。同アライアンスは、ベーリンガーインゲルハイムが持つ研究開発主導型イノベーションの確かな実績とイーライリリー・アンド・カンパニーが持つ糖尿病領域での革新的な研究、経験、先駆的な実績を合わせ、世界的製薬企業である両社の強みを最大限に活用するものです。この提携によって両社は、糖尿病患者ケアへのコミットメントを示し、患者のニーズに応えるべく協力しています。

ベーリンガーインゲルハイムについて

ベーリンガーインゲルハイムグループは、世界でトップ 20 の製薬企業の 1 つです。ドイツのインゲルハイムを本拠とし、世界で 146 の関連会社と 47,700 人以上の社員が、事業を展開しています。1885 年の設立以来、株式公開をしない企業形態の特色を生かしながら、臨床的価値の高いヒト用医薬品および動物薬の研究開発、製造、販売に注力してきました。

ベーリンガーインゲルハイムにとって、社会的責任は企業文化の重要な柱であり、その中にはグローバル規模のイニシアチブ「Making More Health (人々のより良い健康の実現を目指して)」をはじめとする社会的なプロジェクトへの関与や、社員への思いやりの精神などがあります。また、お互いに配慮し、平等な機会を提供し、業務やキャリアと家族生活との調和を重んじることは、相互協力の基盤となるものです。また、あらゆる場面で環境保護と持続可能な社会の実現に向けて注力しています。

2014年度は133億ユーロ(約1兆8670億円)の売上高を達成しました。革新的な医薬品を世に送り出すべく、売上の19.9%相当額を研究開発に投資しました。

日本ではベーリンガーインゲルハイム ジャパン株式会社を持ち株会社として、その傘下にある完全子会社の日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社(医療用医薬品)、エスエス製薬株式会社(OTC 医薬品)、ベーリンガーインゲルハイム ベトメディカ ジャパン株式会社(動物用医薬品)、ベーリンガーインゲルハイム製薬株式会社(医薬品製造)の4つの事業会社を統括しています。

日本ベーリンガーインゲルハイムは、循環器、呼吸器、糖尿病、腫瘍、中枢神経などの疾患領域で革新的な医療用医薬品を提供しています。

イーライリリー・アンド・カンパニーについて

イーライリリー社は、世界中の人々の生活をより良いものにするためにケアと創薬を結び付けるヘルスケアにおける世界的なリーダーです。イーライリリー社は、1世紀以上に、真のニーズを満たす高品質の医薬品を創造することに全力を尽くした1人の男性によって設立され、今日でもすべての業務においてその使命に忠実であり続けています。世界中で、イーライリリー社の従業員は、必要とする人々の生活を変えるような医薬品を開発し届けるため、病気についての理解と管理を向上させるため、そして慈善活動とボランティア活動を通じて地域社会に利益を還元するために働いています。

イーライリリー・アンド・カンパニーの糖尿病事業について

イーライリリー・アンド・カンパニーは1923年に世界で初めてインスリン製剤を開発して以来、糖尿病ケアの分野において常に世界をリードしてきました。現在も、糖尿病患者さんやケアを行う人々の様々なニーズに応えることで、この伝統を築いています。研究開発や事業提携、拡大し続ける幅広い医薬品ポートフォリオ、そして、医薬品からサポートプログラムをはじめとする実質的なソリューションを提供し続けることを通じて、世界中の糖尿病患者さんの生活の改善に努めます。

日本イーライリリー株式会社について

日本イーライリリー株式会社は、イーライリリー・アンド・カンパニーの子会社で、本年設立40周年を迎えます。人々がより長く、より健康で、充実した生活を実現できるよう革新的な医薬品の開発・製造・輸入・販売を通じて日本の医療に貢献しています。統合失調症、うつ、双極性障害、注意欠如・多動症(AD/HD)、がん(非小細胞肺癌、膵がん、胆道がん、悪性胸膜中皮腫、尿路上皮がん、乳がん、卵巣がん、悪性リンパ腫)、糖尿病、成長障害、骨粗鬆症などの治療薬を提供しています。また、アルツハイマー型認知症、関節リウマチ、乾癬、高コレステロール血症などの診断薬・治療薬の開発を行っています。

<http://www.boehringer-ingelheim.com>

(ベーリンガーインゲルハイム)

<http://www.boehringer-ingelheim.co.jp>

(ベーリンガーインゲルハイムジャパン)

<http://www.lilly.com>

(イーライリリー・アンド・カンパニー)

<http://www.lilly.co.jp>

(日本イーライリリー)

Reference

1. Capehorn M, et al. Physician-patient Communication at Prescription of an Additional Oral Agent for Type 2 Diabetes (T2D): Link Between Key Conversation Elements, Physician Empathy and Patient Outcomes – Insights From the Global IntroDia™ Study. Poster 63-LB at the 75th Scientific Sessions of the American Diabetes Association® (ADA) 2015, Boston, USA.